

さきょうくしゃきょうだより



マスコットキャラクター
あかりちゃん

「さきょうくしゃきょう」は社会福祉法人京都市左京区社会福祉協議会の略称です

特集

豪雨・災害を振り返り、 災害に備える地域づくりを考える



目次

- P2 特集 豪雨・災害を振り返り、災害に備える地域づくりを考える
- P4 学区社協ってどんなことしているの？
- P5 参加するもよし。新たに作るもよし。男の居場所
- P6 あなたの地域デビューを応援
- P7 ボランティアグループ連絡会加入グループ紹介
- P8 ご存知ですか？ 左京区社協のお役立ち情報

豪雨・災害を振り返り、 災害に備える地域づくりを考える — これからの地域の福祉力 —

西日本を中心として全国的に広範囲で大雨が続いた、「平成30年7月豪雨」。

左京区では、幸いにも人的な被害はありませんでしたが、多くの学区で避難指示発令により避難所が設置され、災害対応に関する課題が浮かび上がりました。これを受けて、昨年7月9日開催の学区社会福祉協議会（以下、学区社協）会長会議で、「今回の豪雨経験を今後のまちづくり、学区社協の活動や他団体との協働に活かそう」と、各学区社協に対して、アンケートを実施することになりました。

このアンケートの結果をもとに、8月～9月上旬にかけて行われた各学区社協実務者向けの会議や9月27日に開催の学区社協活動交流会等において議論し、社会福祉協議会が地域で期待されている役割や平時から災害を意識した活動を行う大切さを確認しました。



会長会議でアンケートを実施することを決定

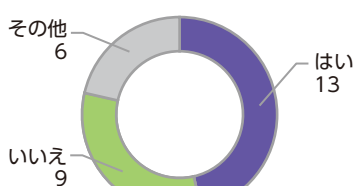


実務者向け会議で議論

「平成30年7月豪雨」に関するアンケート調査まとめ 28学区

設問

災害時の対応について各種団体で取り決めがあるか



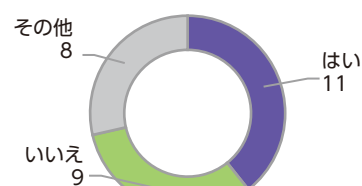
設問

学区独自に要配慮者名簿の作成をしているか



設問

避難所運営マニュアルにおいて学区社協の役割が定められているか



設問

今回の豪雨に対する学区社協の動きについて

避難所運営マニュアルでは、多くの学区で発災時における、学区社協の役割が定められており、避難所運営に携わっていました。また、**学区社協が作成した名**

簿を活用するとともに、**日頃の活動で気になっていた方**に対して、民生委員や老人福祉員等と連携して、**声かけ等安否確認**が行われました。

設問

今回の豪雨を経験し浮き彫りになった課題について

平時においては、各種団体や地域住民間で災害に対して、ハザードマップ活用や訓練等で**日頃から災害を意識し備えておく**ことが大切です。そして、災害時の支援物資の調達や保管方法、スムーズな情報伝達等、**各学区内において具体的に協議していく必要がある**

等の意見がありました。

学区社協の日々の活動により日頃から顔の見える関係ができあがっていたため、災害時にスムーズに助け合いができた、というケースもありました。改めて、日々の活動が重要、との声がありました。

当事者、実践者の声を 左京区地域福祉活動に活かそう！

— 今年の自然災害とその対応を振り返る —

平成30年度は、大阪府北部を震源とした地震、平成30年7月豪雨、台風21号と自然災害が立て続けに起きた年でした。私たちのまちでも起こりうる災害。より多様で個別性の高い支援が必要とされていく中、地域での防災活動や見守り活動への取組がより一層、期待されています。

11月30日に行われた左京区地域福祉推進委員会主催による地域福祉シンポジウムでは、障害者の立場からの意見発表、実践報告を通じて、地域の防災力の向上や情報伝達体制の強化、要配慮者支援のあり方等について考えました。

シンポジスト 左京区身体障害者団体連合会 副会長 辻川 覚氏

避難所における障害者への対応

避難所において配慮が必要な人に対する支援は、障害の種類や程度等によって変わります。また、障害者以外にも、日本語のわからない外国の方、アレルギーのある子ども等、配慮を必要としている人たちは、積極的に避難しにくい・できない、という課題があります。これらすべての課題を一度に解決していくことは不可能です。

障害者と地域住民、相互に必要なことは？

まずは、地域住民や当事者が普段からの関係をつくるとともに、皆さんには当事者の声にもっと耳を傾けてほしいです。同時に、当事者も地域に入り、自分達のことをもっと知ってもらうことで、相互の理解や関係が深まると思います。その上で、課題解決に向けて両者が議論を重ねていく必要があると考えています。



シンポジスト 北区・大宮社会福祉協議会 会長 小川 康浩氏

「大宮ほっとかへんで運動」の広がり

これまで、「防災と福祉のまちづくり講座」という勉強会を開催していましたが、東日本大震災を契機に、地域全体が「平時から住民同士が見守りあえるまちづくり」の必要性を実感し、「大宮ほっとかへんで運動」という取組が始まりました。内容は、学区社協を構成する各種団体長が集まる「防災と福祉のまちづくり会議」の開催や平時から見守りを希望されている高齢の方などに「安心カード」を作成し、見守り活動に

つなげる仕組みです。

さらに、安心カード登録者の自宅を町内ごとに地図にマークし、民生委員・老人福祉員が平時の訪問活動に活用したり、町内会長による緩やかな見守りに生かされています。

この「大宮ほっとかへんで運動」の更なる発展とともに、見守り活動だけでなく、普段の困りごとに対応できる活動につなげていきたいです。



シンポジスト 北区・大宮自主防災会 会長 小島 明氏

大宮学区における防災の取組み

平時の取組みは、各種団体で構成された「防災と福祉のまちづくり会議」で防災に関する地域の課題やその解決に向けた方策を共有しています。

自主防災会では、災害に関する地理的な課題が異なる学区をブロック分けし、自主的に動けるような仕組みを作りました。

また、9月の台風の際には「大宮ほっとかへんで運動」と連動した取組を展開することができました。

平時から地道に協議と訓練を重ねることが重要であり、「平成30年7月豪雨」時の避難所運営が柔軟に対応できたのも、協議と訓練の賜物だと考えています。



コーディネーター 京都府立大学公共政策学部 准教授 朝田 佳尚氏

シンポジウムから見てきたこと

「平成30年7月豪雨」時に経験したこととして、行政から発信される情報は地域全体を俯瞰している情報であるため、自分の知りたい情報とは「ずれ」が生じることを実感しました。その「ずれ」を解消するためには、日常的な取組や訓練、人と人のつながりやいざという時の情報を得ることに尽きると思います。

災害は「過去の話」になりがちですが、今年の災害やその対応を振り返り、次の活動に反映させていくとともに、各種団体・施設の方々においては、「何か地域とつながることができないか」と考えて頂くことで、次につながっていくのではないかと思います。



学区社協って どんなこと しているの？

取組紹介

地域ぐるみで子育てを応援

各学区では、子育て中の保護者同士の仲間づくりや子どもの遊び場づくり等を目的として、子育てサロンを実施しています。

下鴨学区 下鴨一日児童館 “かもっこ”

“かもっこ”は、児童館がない下鴨学区に、親子が気軽にいける居場所として誕生しました。講師を招いた子育て講座、おもちゃ作り、絵本の読み聞かせや紙芝居等、親子で楽しめる企画が盛りだくさんです。また、子育てや保育士経験のあるボランティアスタッフがいるのも注目です。

参加者からは「子育ての相談等が気軽にでき、助かっています。」「引っ越ししてきたばかりで不安でしたが、ここでママ友ができました。」「下鴨学区にも、児童館を作ってほしい。」等の声が挙がっています。

時 間 毎月第1火曜日、第4土曜日
午前10時～11時30分

場 所 下鴨小学校2階ふれあいサロン

対象者 0歳～5歳児（未就学児）

活動の様子は、
こちら▼



学区社会福祉協議会は、左京区内28学区それぞれに組織されている団体です。学区住民が主体となり、より住みやすい地域にしていくための福祉活動に取り組んでいます。

主な取組

健康すこやか学級、子育てサロン、見守り訪問、配食サービス、寝具クリーニング等

年をとっても健康に過ごすために！

各学区では、高齢者へ介護予防や認知症予防を目的に体操やレクリエーション等を行う健康すこやか学級を実施しています。

養徳学区 「おいで～なカフェ」

地域にあるカフェの協力を得て、気軽に相談できる憩いの場として「おいで～なカフェ」を実施しています。月ごとに場所をかえて開催されるため、参加者は、より身近な場所を選ぶことができ、顔が見える関係づくりに役立っています。毎回、簡単な脳トレや体操を行った後、久々に会う友人や、新たにできた仲間とともにお茶をしながら、午後のひとときを過ごされています。

また、「何でも相談コーナー」が設けられており、日頃の困り事等を話せる場もあります。

時 間 年4回（4、7、11、2月）
午後1時30分～3時

場 所 ①アン・シャーリー ②フィガロ

対象者 70歳以上の方



参加するもよし
新たに作るもよし

田舎の居場所

人生100年時代と言われる中、健康で元気に年を重ねていくため高齢になってからどのように社会参加していくのか、特に、長年仕事を続けてきた男性にとって、定年後の居場所づくりは重要なテーマです。

このページでは、男性が参加しやすい居場所を特集します。



■ 趣味仲間とつながる！

囲碁・将棋教室（新洞学区社協）

新洞学区では、男性にも地域行事への参加や趣味を広げて欲しい、との思いから、去年より健康すこやか学級のひとつとして、囲碁・将棋教室を実施しています。

参加者同士で教え合い、囲碁・将棋の腕を楽しく磨けるような場所となっています。今や海外の方にも大人気の囲碁・将棋。興味はあったものの、なかなかチャンスがなかったあなた！「対局」を通じて近所の仲間と交流をしてみるのはいかがでしょうか。



■ 新たなことに挑戦！

男性のための料理サークル「葵くん」（葵学区社協）

葵学区では、2か月に1回、小学校を利用して、料理教室を開催しています。

料理が苦手な男性が学べる機会を作りたいという思いで始まりました。レシピは、ボランティアのメンバーがアイデアを出し合って考えます。大切にしていることは、最初から最後まで自分で作り上げることです。身近にある旬な食材を使い、簡単な工程で作れるよう工夫しており、料理を学びたい男性にとって、新たな挑戦ができる場になっています。



■ 体を動かして健康づくり！

公園体操（京都市左京区地域介護予防推進センター）

30分程度で気軽に楽しめる公園体操は、いま中高年男性の間で広がりをみせ、公園やお寺の境内等で開催されています。体操を通じて近隣住民や地域社会と接点をもつきっかけにもなっています。

この公園体操を支えているのは、講座を修了された地域のボランティアの方々。現在、約110名のボランティアが活動しており、講師として多くの男性ボランティアが活躍中です。まずは参加者として、いずれは講師で活躍してみるのはいかがでしょうか。※詳細は、京都市左京区地域介護予防推進センター（☎075-706-6499）へお問い合わせ下さい。



あかりちゃんが
インタビュー

あなたの 地域デビュー を応援

地域で活躍する
ヒトを紹介!!



「自分の力を生かしたい。」「何か活動を始めたい。」左京区社会福祉協議会(左京区ボランティアセンター)は、そんなあなたを応援します。

提供していること

- ① ボランティアに関する相談受付
- ② 活動先の紹介
- ③ ボランティア情報提供
- ④ 講座の開催
- ⑤ ボランティア保険の受付
- ⑥ 物品貸出

どんな活動をしているの? どうやって活動を始めたの? みなさんの疑問をあかりちゃんが取材してきました! 今回は、ご自身の経験などを生かして活動されている3人の方に語っていただきます。



子育てママ支援サークル
☆はじめのいっぽ

山崎さん

子育て×ボランティア

子育て中のママの力になりたい

活動を始めたきっかけは、「ヨガを習いたい」という思いから、資格を持つ友人に頼んで、ヨガの会を始めたことです。そこで子育てママには、資格や特技を持っている方や何か習いたいと思っている方が多いと感じ、お互いの居場所を作るため今のサークルを作りました。このサークルでは、子育てしながら、自身の力を生かして活躍したり、新たなことに挑戦するなど、子育て中のママが社会復帰のはじめのいっぽを踏み出せる機会づくりをしています。「自信を持って社会復帰できた」といってもらえた時はやりがいを感じます。

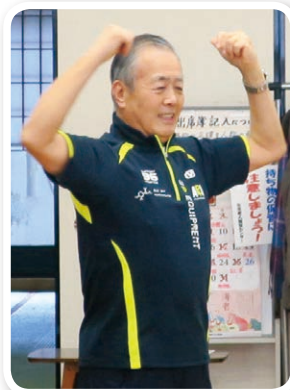
詳しい活動内容は
こちら▶



健康維持×ボランティア

体操を通じて人との つながりができました

70歳から活動を始め、8年になります。きっかけは、左京老人福祉センターにふらっと訪れた時、職員さんに声をかけられ体操教室に参加したことです。参加しているうちに、教室の先生に、「講師をやってみないか」と誘われ、体操の講座を受講し、体操教室の講師や脳トレ教室の手伝い等の活動をしています。私自身、他区から左京区へ引っ越してきましたが、活動を続けることで顔見知りの方々が随分増えました。やっていてよかったと思うことは、様々な人との出会いがあり、自分の知らない話をたくさん聞いて勉強ができています。



体操ボランティア
今崎さん



静原社会福祉協議会
中村さん

得意なこと×ボランティア

ものづくりの趣味が 役立っています

退職後、学区社会福祉協議会の活動に関わるようになりました。ものを作ることが好きなので、学区社協が行う高齢者の居場所の開催時に、参加者の皆さんと作品づくりをしています。作品のアイデアは、お店や手作り市に出かけ、「これいいなあ!」と思うものに会ったら、どうしたら作れるのか、考えて形にします。気を付けていることは、身近なもので誰でも作れるように工夫することです。「次は何を作るの?」「待ってるよ!」という参加者の声を聞くと、とてもやりがいを感じます。

フーちゃんの笑顔のつどい

フーちゃんの笑顔のつどいでは、AAA（スリーエー）方式の楽しい脳トレをしています。

AAA方式とは、

(A) あかるく (A) あたまを使って (A) あきらめない

指のトレーニングだけでなく、リズムに乗った手の体操やお手玉回し、太鼓やバチを使った演奏、パズルなどなどを、笑いながら楽しくやっていく、というのが、AAA方式の脳トレです。

優しさのシャワー（ほめる、タッチ、目を合わせて会話）を降りそそぎながら、脳トレをするのが、認知症予防に効果的です。



▲ジャンケンで
リボン取り
ゲーム

ご興味、ご関心を持たれた方は、ぜひ一度
ご見学へお越しください。

毎週木曜 午後2時30分～3時30分

左京老人福祉センターにて活動中♪

事前申し込み不要 お気軽にご参加ください

*上靴が必要です。



◀輪になって
手遊び

左京区ボランティアグループ連絡会 会員団体募集

現在、左京区ボランティアグループ連絡会には、28団体が登録しています。

年に1回、全グループを対象に連絡会を開催して、左京区内の他のグループとの情報交換や交流の場を提供しています。

また、登録団体の紹介冊子を作成したり、年1回のボランティア入門講座で活動紹介・メンバー募集をしたりしています。更に、左京区社会福祉協議会のボランティアグループ助成金の申請や、左京合同福祉センターの会議室や印刷機の利用ができます。ぜひ会員登録してみませんか？



安心して活動するために

ボランティア保険・福祉行事保険のご案内

ボランティア保険 … ボランティア活動をする「個人」が対象となる保険です。かける保険で参加者全員が対象となる保険です。

●年間保険料（1名につき）

基本コース Sプラン 250円 Aプラン 300円 Bプラン 500円 ※天災コースもごございます。

●加入期間 保険料振込日の翌日～当該年度の3月31日までが保険期間となります。（年度単位）

福祉行事保険

… ボランティア団体等が行う非営利の公益的な行事や活動にかかる保険で参加者全員が対象となる保険です。

●保険料（参加者1名につき） 日帰り行事 30円から 宿泊行事 238円から

加入手続きは、各区社会福祉協議会・京都市社会福祉協議会が窓口となっております。

問合せ先
取扱い代理店

京都市左京区社会福祉協議会
(株) エスアールエム

☎075-723-5666
☎075-255-0881

ご存知ですか？ 左京区社協のお役立ち情報

左京区社協では、“こころのひとりぼっちをなくそう”を合言葉に誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指し、様々な取組をしています。

おれんじサロン

ココロとからだに嬉しい交流の場

認知症の方とご家族の方を対象に、仲間との出会い、ちょっとしたみんなの支え合いによって笑顔が溢れる、「おれんじサロン」を開催しています。

- 日 時** 毎月第2木曜日 午後1時30分～3時（祝日の場合変更あります）
- 場 所** 左京合同福祉センター 3階 会議室
- 内 容** 茶話会・レクリエーション・歌・体操等
- その他** 無料（ただし企画内容によって材料費などを頂く可能性があります）
途中退出可能で送迎はありません。



地域あんしん支援員 設置事業

この事業は、福祉的なサポートが必要であるにもかかわらず支援の利用を拒否する方、制度の狭間にある方などに対し、行政等の関係機関や地域住民との連携のもと、地域あんしん支援員が寄り添い支援を行い、自立を目指します。



社会的孤立の状況にある方にアプローチ

引きこもりであった30代男性。「社会参加がしたい。」という思いから就労につながった男性の声

私は、高校中退後、家事を手伝うことで自分の役割を見出し、特に就職する必要性を感じなくなっていました。しかし、支援員と何度も話すうちに「自立したい」という思いが強くなり、支援員の紹介により就労体験に参加しました。体験を通じて、世代の違う方と話し接することで、将来やりたいことを考えるようになりました。現在は、徐々に自信を取り戻し、ひきこもりの人などに理解のある飲食店で働き始めています。



日常生活自立支援事業

「安心して暮らす」をサポート

本事業は、認知症やものの忘れ、知的・精神の障害などの理由により、福祉サービスの利用や生活費のやりくり、通帳や印鑑の管理に不安のある方に対して、ご本人の悩みや希望を聞き、住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるよう支援するものです。ご本人やご家族をはじめ、

医療・福祉関係者等、どなたからでもご相談を受け付けています。お気軽にご相談ください。

また、この事業を支えて頂いているのは、研修を受講した「生活支援員」です。ご協力頂ける「生活支援員」も募集しています。

本誌に関する内容についてご興味・ご関心のある方はこちら。社協に関する情報は、本誌の他、ホームページ・SNSでもご紹介しています。

社会福祉法人 京都市左京区社会福祉協議会 左京区ボランティアセンター

発行責任者 山田 栄一

〒606-8103 京都市左京区高野西開町5番地

京都市左京合同福祉センター 3階

TEL 075-723-5666 / FAX 075-723-5665

E-mail s-csw@sakyoku-syakyo-kyoto.jp

ホームページ <http://www.sakyoku-syakyo-kyoto.jp/>



▲Twitter



▲Facebook

